

山陰海岸ジオパークにおける地理学的

# 日本海航空会社による水上飛行機事業の 展開に関する調査の中間報告

研究員 新 名 阿津子

## 1. はじめに

ジオパーク（Geopark）とは、自然遺産と文化遺産の両方を有する地域を指す。2010年、ユネスコ世界遺産委員会により、山陰海岸ジオパークが世界ジオパークに認定された。この地域は、美しい海岸線と豊かな自然環境を有し、観光資源として注目されている。本研究は、この地域における水上飛行機事業の展開に関する調査の中間報告である。

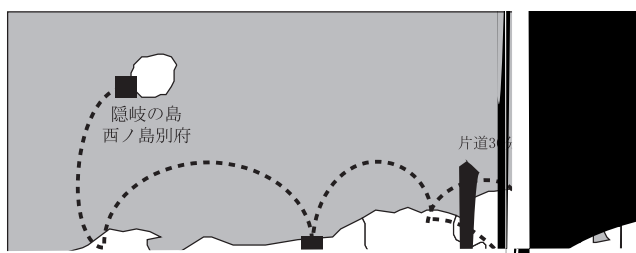
## 2. 日本海航空会社の経緯

(1)

1928年5月2日、日本海航空会社（NIPPON KAIYU KWAISAN）が設立された。この会社は、日本初の水上飛行機会社として知られる。設立当初は、東京と大阪を結ぶ航路を運営していた。その後、徐々に他の都市へと航路を拡大していった。

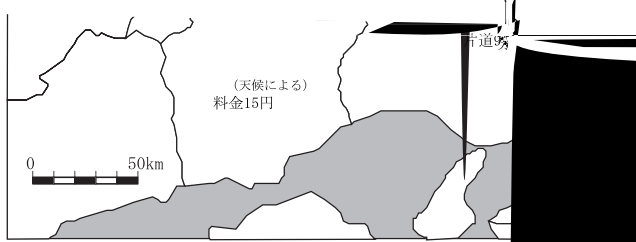
(2)

1931年7月、日本海航空会社は、山陰海岸沿いに航路を開設した。この航路は、隠岐の島と西ノ島別府を結ぶものであった。片道30分、往復1時間と短時間で移動できることが、この航路の大きな特徴であった。また、この航路は、観光客にとって非常に便利な交通手段となっていた。



(3)

初フライは、1931年9月7日、三菱MC-1型水上飛行機1号機（乗員2名乗、乗客5名）が池田飛行場から飛出した。この飛行機は、日本初の水上飛行機として知られる。この飛行機は、山陰海岸沿いに航路を開設した。この航路は、観光客にとって非常に便利な交通手段となっていた。



では当初、千代川と袋川の合流地点を発着場とする案もあったが、湖山池がそれに選定された。この時の飛行場は堀越に設置され、湖山砂丘には数千の見物客がおしかけた。鳥取市内からの臨時バスが運行され、ビールやサイダーの屋台も出たという。開館したばかりの県立図書館では「遊覧飛行の映画と講演の夕」が開かれ、水上飛行機は鳥取市民に大きな歓声を持って迎えられた。翌年には鳥取と城崎、松江を結ぶ定期飛行機が開始し、湖山池を以て発着場とした。ここでは、その経緯について述べている(1)。

#### (4) 湖山池と水上飛行機

1934年には、湖山池に飛行機が飛来し、山形県でも初めての飛行機が飛来した。この時、松江で定期飛行機が開始された。水上飛行機を以て鳥取から、湖山池に飛行機が飛来したとの噂も流れている。

1にも述べたように湖山池には当時の飛行機が飛来しているが、これが水上飛行機の飛来であるとの噂や伝説は設置されていない。というのも、この噂は湖山池の民の間で流れる話である。城崎では山形川に当時の飛行機が飛来しているが、湖山池では城崎1機、山形1機の飛行機が飛来され、城崎から山形と定期飛行機が開始されていたことを示している(2)。この点においては、湖山池の飛行場に案内が設置されている。

これで、当時の噂や伝説を、明らかに湖山池と城崎を結ぶ飛行機が飛来してきた。湖山池の地、大と小の地帯での飛行機が飛来する水上飛行機の開設に際しては、あらかじめ定められている。さらに、この水上飛行機の飛来に際しては、湖山池の地帯や地帯の飛行機を以て、山形県一における飛行機の飛来を地帯から構築し、それらを湖山池に飛来させるための飛行機を以て飛来させていくことを示している。